

play here 事務局 2026



統括：

小林勢（環境政策課長・写真左）

#全体統括 #庁内連携

これまで多くの方のご理解とご協力をいただいたおかげで、令和7年度に公園整備が完了し、私が構想を始めて6年が経過して、ようやくスタートラインに立つことができました。

このプロジェクトも4年目を迎えますが、この間、様々な方とお話をさせていただきました。その一つひとつの言葉を受け止め、これからその期待や思いに応えながら、次世代につないでいかなければならないという責任を強く感じております。

プロジェクトを始めた時から繰り返していますが、「整備して終わりにしない」ために、令和8年度もみなさんと一緒に新たな取組にチャレンジしていきます。新しい係長とともに試行錯誤の連続とはなりますが、みなさんの期待や思いに添えるように取り組んでまいりますので、引き続きよろしく願いいたします。

プロジェクト担当：

郡司和昌（環境政策課長と公園係長・写真右）

#全体統括 #庁内連携

私は民間企業勤務を経て、30代半ばで小金井市役所に入庁し、入庁後は庁舎や公有財産の管理、公園や緑地の管理、土地区画整理事業等を担当してまいりました。そして、この4月に約10年ぶりに公園や緑地を管理する部署に戻ってまいりました。

以前、公園管理をしていたころは、遊具やトイレ、ベンチ等の設備の不具合や草木の繁茂、越境枝等に伴う対応等の維持管理のほか、公園の適正利用を促す対応等に追われる日々で、とてもインクルーシブな活動にまで意識が回らない、手が届かないといった状況でした。

この約10年間に、**play here**もですが、指定管理者制度の導入や域学連携の推進等、公園を取り巻く状況や環境は大きく変化・伸展しており、昔の認識や情報を急いでアップデートしていかなければならないと強く感じております。

令和5年度から始まったこのプロジェクトも、令和7年度にインクルーシブ遊具等のハード面の整備が整い、これから様々な関係先、協力先といい関係を続け、市民のみなさんに「小金井市に住んでいてよかった」「近くにいい公園がある暮らしっていいな」と思ってもらえるような公園にしていきたいと思っております。



共同ディレクター：

熊井晃史（「とをが」主宰／「GAKU」事務局長／「公民館のしあさって」編集・執筆など）

#全体ディレクション #コンセプト #コンテンツ #見守りの仕組みづくり #出張授業

武蔵野市で生まれて、三鷹市で育って、小金井市に事務所とギャラリーのような場所を構えています。ずっと教育の仕事をしてきていますが、そこにあるのは学校とともに、学校の外の学びも豊かにしていきたいという思いでした。まさに、公園もその舞台の一つです。

一方で私は、難病を抱えている息子を持つ父親という立場もあります。ということもあり、このプロジェクトがより良くなっていくということを、あらゆる角度から願いつつ、令和6年度から参加し、**play here**というコンセプトを立案したり、当事者の方々、専門家の方々、関係者の方々にじっくりゆっくりお話をおうかがいし、とりまとめていくことに注力をしてきました。

具体的な公園のハード整備が完了した令和8年度においては、「ハード整備だけで終わらせない」と繰り返し唱えてきたことが、まさに試されますし、言葉や願いを具現化するタイミングでもあります。同時に、こうも唱えてきました。「公園はありがたい未来のための練習場」。みなさんと一緒にいろんな「実践／練習」ができれば最高です。



共同ディレクター：

飯石藍（公共R不動産シニアマネージャー兼編集長／株式会社nest取締役など）

#アドボカシー #全国連携 #庁内・指定管理者連携

こんにちは。飯石藍（いしあい）と申します。私は、公共空間に関するメディア「公共R不動産」の編集者として公共空間活用に関する取材・情報発信・リサーチ、そして小金井市をはじめとした全国各地で、実際の公共空間活用プロジェクトの伴走を自治体・住民・企業などの方々と共に伴走しています。

また、私自身が暮らしている東京都豊島区では、南池袋公園・グリーン大通りを舞台に社会実験をハード整備や都市政策につなげ、公共性・寛容性あふれる場を生み出すべく「IKEBUKURO LIVING LOOP」というプロジェクトを行政・市民・地元企業と共創して進めています。

メディアと実践を巡りながら日々感じているのは、まちは行政だけがつくるものではなく、わたしたち一人一人の声と実践が織り重なって形作られるものだということです。公園に行きたくても行けない、生きづらさを抱える多くの人の拠り所として、さらに「こうなったらいいな」を描き実践・練習する場として、公園というフィールドが開かれていくための土台づくり、仕組みづくりを皆さんと一緒に進めていけたらと思っています。



鎌田美実（公共R不動産プロジェクトマネージャー）

#スケジュール・予算管理 #情報メディアとしての公園活用

前原町に祖母の家があり、年に1度は訪れていた小金井。祖母が亡くなってからは訪れる機会も減っていたので、こうして関わることになるとは不思議な気持ちです。私は、中学生のとき不登校でした。家にも学校にも居場所がないように思えて、恥ずかしくて近所を出歩けなかった。当時、今よりも人の少なかったインターネットのなかだけが唯一「いてもいいと思える場所」でした。最近はインターネットも匿名性が薄れ、随分と窮屈になってしまいました。そんな今だからこそ、公園などの公共空間は、さまざまな人にとって「いてもいいと思える場所」になり得るのではと可能性を感じて、公共R不動産というチームで活動しています。

play hereは、小金井市の公園がそんな場所になっていく予感にあふれたプロジェクトだと思います。これまで活動してきた方や、これから関わってみたいと感じている方が、もっと活動しやすくなったり、小金井市の外までもそ

の活動や切実な志が伝わっていくように。たくさん見て、聞いて、感じて、考えて、できることをやっていきたい
と思います。



土橋遊（ライター／コーディネーター）

#各種コーディネーション

こんにちは、土橋です。これまで、ワークショップ、子ども食堂、不登校などをテーマに、ずっと子どもにまつわる仕事をしてきました。ひとりひとりが異なるユニークさを持つ子どもと共にある暮らしは、遊びも学びも居場所も、もっと多様な選択肢があっていい。そんな選択肢が誰もにとっても開かれた社会であってほしい。そんな気持ちから、学校や行政、地域のみなさんと手を取り合える接点を探し続けながら働いています。

公園はみんなの希望が集まる場所なんだと、[playehere](#)を通して早速お会いできた方々とお話するたび、改めてそんなことを思います。より多くの方がいろいろなアイデアや夢を持ち続けられるプロジェクトでありたいし、一緒に形にしていける場を目指したい。これからもっとたくさんの皆さんとお話をすることを楽しみにしています。



松田東子（公共R不動産研究所研究員／ビオトープ管理士）

#「ビオトープ」づくり

こんにちは。公共R不動産で、公共空間についての取材やリサーチを行っています。私事ですが、子どもが生まれて以来、取材などの際は、可能な範囲で子どもを連れて行ってみたいです。最初は保育園に入れずやむを得ずでしたが、公共空間やまちについて考える時に、当事者でもある子どもが存在するくらいはいいのでは、という思いから、自主的な社会実験のようなものとして続けています。結果としては、快く受け入れていただけることもあれば、難しいこともありました。前例がない、十分な設備がないと断られたり、不適切だと言われたこともあります。子連れでは行きたくても行けない空間がたくさんあることを知りました。一方で、会議場所を会議室からお座敷のある食堂に変更してくださったり、ちょっとパーテーションをずらして机でおむつ交換ができたり、客席ではなく照明用の部屋からなら講演会を聞けたりと、臨機応変に対応いただいて、子連れが叶うことも何度もありました。

公園は、子どもはもちろん誰もがウェルカムな場所であるはずです。そんな公園に、行きたくても行けないとき、どうしたらいいのか。設えで、工夫で、心遣いで、できることから変えていけるのではないかと。playhereでその模索のプロセスをご一緒できることをとてもうれしく思います。



山家渉（公共R不動産／泊まれる公園INN THE PARKなど）

#「ビオトープ」づくり

昔から公園が好きで、公園や広場の設計を学び、以降はずっと公園の運営を仕事にしています。樹木や設備の維持管理はもちろんのこと、どんな公園にしていこうかな？と運営の仕方を考えたり、どうやったら過ごしやすくなるかな？と空間を考えたり、イベントもやってみたり、コーヒー屋さんになってみたり、あの手この手で公園と関わってきました。いいこともあれば失敗もたくさんしてきた中で、ひとつ確かに感じるのは、ハードや空間だけが公園なのではなく、その公園で過ごす人たちの、過ごしたい人たちの想いや関わり合い、それを尊重できる環境や心のあり方もまた公園を作っているんだな、ということです。そして、そういうさまざまな想いをうけて、今度はずすでにある空間に目を向けてみる。そうやってソフトとハードを行ったり来たりする試行錯誤の先に、公園という場所が本来持っている”おおらかさ”があるんだろうな、とも思っています。

そのきっかけのひとつとして今回、ビオトープづくりを担当します。ビオトープで生きる小さな想いにも耳を傾けながら、同時に、どんなふうはこの公園で過ごせたら心地良いかな？と、ビオトープを取り巻く空間全体にも目を向けながら、自分達の手で公園が少しずつより良いものになっていく、その一瞬一瞬をみなさんと一緒に過ごせたら嬉しいです。